

宿坊

「宿坊」または寺の宿舎に宿泊したい人は、仏教の僧侶の簡素で伝統的な生活スタイルをよく理解するために、いくつかのマナーのルールを守ることが求められる。

寺院の宿舎は一般に伝統的な畳やふすまのある和室で、浴室は共同である。

宿泊者は午後 5 時までには宿舎に戻らなければならない。というのも、夕食は比較的早い時間、しばしば 6 時頃に出されるからである。

夕食と朝食は「精進料理」である。これは僧侶が食べる菜食料理であり、食事には「湯葉」（豆腐の皮）や「こんにゃく」（こんにゃく芋からつくられる塩味のゼリー）が含まれることが多い。

宿坊に宿泊する者は誰でも、男女別の共同の浴室を使うことになる。ここでも、いくつかのルールを守らなければならない。

「温泉」と同じように、宿泊者は浴室の外で服を脱ぎ、脱いだ服は外に置いておかなければならない。浴室に持ち込むことができるのは小さなハンドタオルだけである。蛇口とシャワーの前に座ったら、石鹸とシャンプーで洗い、泡をしっかり洗い流して、バスタブの中に泡が入らないようにする。

風呂のお湯は熱く、リラックスすることができる。

宿泊者は夜には自分で布団を敷かなければならない。布団は通常、寝室の中にある引き戸付きの大きな物入れの中に納められている。床に布団を広げ、同じように用意されているシーツをその上につける。物入れには、暑い夏に使うことができるブランケットや、冬に使う厚い掛け布団も用意されている。寒い時期には、室内にガスストーブが用意されることもある。

宿泊者は朝には自分で寝具を片付ける。

また、朝のお祈りへの参加も促される。これは一般に朝 6 時に始まり、30 分間行われる。朝食は通常朝 7 時から。寺によっては、午後に瞑想のセッションを行うところもある。